

業務用向け水稲新品種候補 「ひたち34号」の多収栽培技術



農業総合センター農業研究所

業務用に適する水稲新品種候補「ひたち34号」について、精玄米収量や検査等級等の目標を達成するための生育指標と栽培上のポイントを策定しました。

【精玄米収量600kg/10a以上、千粒重23.5g以上、検査等級1等、倒伏程度「少」以下】

「ひたち34号」における㎡あたり籾数と収量及び千粒重の関係

「ひたち34号」の㎡あたり籾数と収量、千粒重等の関係をみると、㎡あたり籾数を31,000粒確保することにより、精玄米収量600kg/10aと千粒重23.5g以上が期待できます。

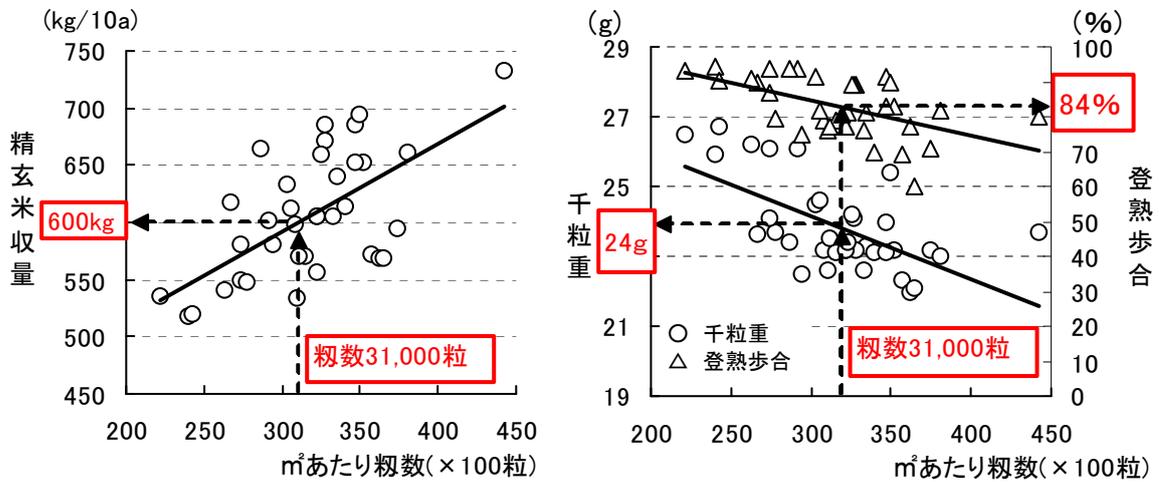


図 「ひたち34号」の㎡あたり籾数と収量、千粒重等の関係

「ひたち34号」の多収栽培のポイント

「ひたち34号」は、10aあたりの基肥窒素量を、「コシヒカリ」の3割増とし、栽植密度18.5株/㎡で移植します。また、穂肥窒素も3割増量し、出穂前18日に施用にします。これにより、600kg/10a以上の収量と倒伏程度「少」以下、検査等級1等が得られます。

表 「ひたち34号」の多収栽培条件での収量、品質

品種・系統名	栽培条件				生育、収量、品質等					
	栽植密度 (株/㎡)	基肥窒素量 (kg/10a)	穂肥窒素量 (kg/10a)	穂肥施用時期 (出穂前日数)	㎡あたり籾数 (×100粒)	倒伏程度	玄米重 (kg/10a)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	検査等級
ひたち34号	18.5	8	4	18	334	0.8	648	23.5	83	1
チヨニシキ					387	0.7	671	22.1	86	2

注)H21～23年・龍ヶ崎市、倒伏程度:0(無)～5(甚)の6段階評価
基肥窒素量8kg/10a、穂肥窒素量4kg/10aは、「コシヒカリ」の標準基肥量6kg/10a、3kg/10aの3割増に相当する

栽培上の留意点

- ・基肥量・穂肥量は地力や生育に応じて調節してください。
- ・耐倒伏性は「チヨニシキ」よりやや劣るので、倒伏に注意してください。
- ・茎数確保のため、深植えを避け、活着後は浅水管理を行いましょう。

<問い合わせ先: 農業研究所 水田利用研究室 電話0297-62-0206 >